

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4029400078		
法人名	社会福祉法人 桜園		
事業所名	グループホーム さくらそう		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028-1 (電話) 0942-51-1002		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 30 日	評価結果確定日	令和 7 年 1 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

さくらそう開設当初から法人の理念である「和」を基本とし、さくらそうの理念として「笑を中心に自由、思いやり、安心、信頼をそしてみんなでささえあいながら、慣れしたしんだ『ちっこ』でさあ暮らそう」を実現できるよう職員一丸となって支援に取り組んでいます。何かのご縁があってさくらそうにご入居頂いた入居者の皆様には「さくらそう」に来て良かったと思えるよう日々関わりを持ち、それぞれに役割を持って頂く事でさくらそうでの生活をより豊かにして頂ける様援助を行っています。地域貢献活動の一環として同グループ内での地域見守り支援活動に参加し、地域の皆様に知って頂く機会を設けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 11 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、有料老人ホームが併設する、平屋建ての2ユニットである。近くは田園や公園があり、散歩コースとなっている。母体が病院で、訪問診療があり、医療との連携が図りやすい。敷地内や近隣に関連施設があり、協力体制がとられている。感染状況をみながら、誕生日の外出支援等をしている。毎日ケアカンファレンスを行い、利用者によりよいケアが実施できるように、取り組んでいる。理念の実践ができるように、利用者との関わりをもっている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に全職員で作り上げた理念を基に日々の業務に取り組んでいる。誰もが目に入りやすい箇所に掲示し、常に意識できるようにしている。	慣れ親しんだ言葉が入った、事業所独自の理念がある。新人職員に理念の説明をし、職員会議では、理念の内容を確認・共有し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の方に向けて秋祭りの案内をしているが新型コロナウイルス感染防止の為、本年は行っていない。地域の清掃に参加し、区長様とは電話連絡や広報配布時の会話等で交流出来ている。	散歩の時に、地域住民に会った時、挨拶をする等関わりをもっている。町内会に加入しており、清掃活動に参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献活動として月一回の「さくらそうカフェ」と地域医療センターと連携し、開催している「認知症カフェ」で介護や認知症に関する相談やテーマに沿って専門職の方の講義を受けられる体制をとっているが本年はコロナウイルス感染防止の為休止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてインシデント、アクシデント、日々の活動などの報告をしている。日常生活においては写真を掲示し説明を行っている。家族様にもご参加頂けるように文書や電話などで連絡を行い、参加者の意見がサービスの向上に繋がるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者やサービスの状況、介護事故、現在の取り組み状況等を報告している。事業者から、出席委員に質問を行い、意見が出やすくなるように工夫している。委員からの意見・要望・質問を職員で協議し、取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、運営上での不明な点に関しては直接、市に尋ねて相談を行ったり、アクシデント等の報告は随時、行っている。また、運営推進会議に出席して頂いた時に質問したり、話し合いを行うことで関係を作っている。	行政には、電話やメールを中心に、質問や報告、相談をしている。コロナ禍前は、さくらそうカフェの開催や公民館の体操教室に参加をしていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会に参加し、報告を行い、相談をするなど日頃のケアの在り方を考える機会を設けている。転倒防止の為、センサーを使用しているが身体拘束は行わないことが原則で現状も行っていない。施錠に関しては夜間のみ、外部からの侵入を防ぐ為、施錠を行っているが日中は行っていない。	日中玄関の施錠はしていない。外出傾向のある利用者には、見守りや付き添いを行い、集中できることをしてもらったり、散歩と一緒に行く等、気分転換できることをしている。身体拘束の研修は、全職員ウェブ研修を受けている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等への外部、内部研修に参加し、全職員と資料等で周知している。また、会議等を通してということが虐待に当たるのか、また虐待が起こらないような対応をしたらよいのか、説明や話し合いの場を設けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている利用者様が居られるが今後もご家族の状況により、必要となられることも考えられる為、毎年、市等で開催されている研修会などに参加し、理解を深めるようにしている。	権利擁護制度について、家族に必要時に面談して説明を行っている。権利擁護制度についての外部研修に、一部職員が参加して、資料を全職員に回覧して学べるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者二名、もしくはケアマネージャーで対応し、十分な説明をした後に家族に同意を頂くように努めている。また契約後も不明点や疑問点があれば遠慮なくお尋ね頂けるようにお伝えしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは契約時に意見や要望等について説明を行っている。また、入居後に気付かれた際は職員へ申し出て頂くようにしている。	職員は、日常的に、利用者の要望や意見を聞くように、心がけている。誕生日の外出は、利用者の希望を取り入れている。家族に、面会時、緊急時は電話で、状況報告を行い、意見と希望を聞いて対応している。外出希望時は、法人に確認しながら、対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議への参加や面談、研修会等で職員の意見や提案を聞き、反映できることには対応している。	全体会議や毎日のケアカンファレンスで、職員の意見を聞いている。気になる職員や新人職員には、管理者から、声かけをしている。職員からの意見が出た際には、他職員の意見を聞いてから、その意見を取り入れるか、協議して決めている。記録内容、利用者のパットの種類、浮腫予防のサポーター使用等職員の意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、人事効果を行う際に自己目標の取り組み状況や考課表の評価、次の期間に対する目標、管理者の評価を基に話をしている。その中で本人のやりがいに繋がる内容として改善が必要なことについては環境の調整を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用にあたっては年齢や性別を理由に排除することはない。より広い年齢層の方々が短時間からでも働き、能力を発揮してもらえるような環境作りに取り組んでいる。	定年は設定しているが、希望により雇用体系を変更して勤務の継続が可能である。職員の資格取得や休みの希望時は、対応している。職員が自分の得意分野を活かして、働きやすい職場環境づくりをしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時のオリエンテーション時、毎年顧問弁護士により、人権、権利擁護の研修を行い、また、市で開催される権利擁護の研修にも参加し、職員への伝達を行っている。また、身体拘束廃止委員会の中でも権利擁護・虐待防止の視点を持って話し合いを行い、啓発している。	本年度の人権に関する研修は、高齢者の人権については、他の研修科目に関連して学んでいる。以前に開催した研修資料も保管しており、見返せるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内や法人内で開催している研修への参加は全職員へ案内を行っている。通常は毎月、合同研修を行っているが今年度は密にならないように資料や動画を使用しながら勤務時間内に取り組める内容で研修を行った。外部研修については役割に応じて参加をしてもらっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回、開催される市内グループホーム部会へ参加し、他施設職員の方々との意見交換を行っている。同部会主催の研修会やレクリエーションに職員参加を勧め、交流の機会を設けている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されること自体に不安や迷いを抱かれて場合もある為、ご本人様が話しやすい雰囲気作りを行い傾聴する。また施設見学时等で事前に関わりを持つことで関係性を構築できるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時にご家族に不明な点や要望を伺い、丁寧に説明をすることで信頼関係を築けるよう努めている。入居後も面会時に体調や日常生活の報告、相談をし、必要時には電話連絡を行い、ご家族からも気軽に連絡して頂けるような関係作りを心掛けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	申込みの際に現在の現在の状態やご家族様 の意向等を聞き、必要となるサービスが何 なのか見極めて説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	自宅で生活をされているのと同じように一 緒にシーツ交換や衣類整理を行ったり、洗 濯物をたたんで頂いたり利用者様の出来 ることを行って頂き、暮らしを共にする者 同士の関係性が持てるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	現在はコロナ感染予防の為、外出や面会制 限にて家族との関わりが少ない状況ではあ るが、電話や毎月のお便りにて入居者様の 状態の報告を行い、ご家族様の安心に繋 がるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人や知り合いなどの馴染み の関係が途切れないように通常面会などは オープンにしている。現在は新型コロナウ イルス感染防止の為面会制限の中、ガラ ス越し、距離を取ってマスク着用での面会 を行っている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所につ いて、家族や利用者から、情報を得ている。 家族の協力を得て、病院受診や外出時に、 馴染みの場所を通ることがある。現在は、 面会は家族が中心だが、知人も面会に來ら れている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やレクリエーションを通して入居者間 の交流の場を提供している。どうしても他 者と気が合わずトラブルになるような場合 には座席の配慮や職員が仲介を行うことで 安心できるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大 切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退居後に相談があった場合には、本人様の 状態などをお聞きした上で適切なアドバイ スができるように支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様一人ひとりの希望や意向に沿った支援が出来るよう、日常生活での行動や会話の中で本人様の思いや意向を十分に把握し、また、介護計画作成時に意向の徴収、職員間の情報収集に努め、本人本位の暮らし方を検討している。	職員は、日々の関わりの中で、利用者の思いや希望の把握に努めている。会話によるコミュニケーションが難しい利用者には、午後のゆったりとした時間を活用し、繰り返し話をして表情や仕草から把握するよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に状態確認の為、訪問を行い、本人様、ご家族にお話を伺い、情報収集を行っている。アセスメントシートを作成し全職員に提示することで情報の共有を図り、これまでの生活環境に近い状態で自分らしく過ごせるよう心掛けている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の行動や言動を観察し、日々の変化を記録に残している。病状や認知症状を含めた心身状態、現有能力を連絡ノートや記録、会議を通して把握し、全職員が共有することで情報交換に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時にモニタリングを行い、本人様、ご家族様の意向を伺い、職員間でも課題やサービス内容の検討を行っている。作成後はご家族様に説明し、了承を得るなど現状に合わせた計画作成に努めている。	介護計画は、家族や職員、医師の意見を取り入れ、個別具体的に作成している。6か月に1回、あるいは、必要時に介護計画の見直しをしている。病院から退院された直後や、心身の状態変化が著しいときは、毎日午後に行っているカンファレンスの時間に職員間で情報共有をして、ケアマネジャーに伝達し介護計画に反映している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にはご本人の言動やそれに対しての対応等細かく記録し、申し送りやユニット会議、ケアカンファレンスを通して情報共有に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族による協力、またかかりつけ医による訪問診療等外部からの支援を依頼実施している。入居施設でもあることから、外部との接触、多機能化という点では改善の余地があると思われる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、かかりつけ医との交流を通して、入居者の安全で豊かな生活を支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に家族、職員同行の下、かかりつけ病院受診（往診）を行い、日々のご本人の体調面等の報告を行っている。また、体調不良時などかかりつけ医と連携を取り必要な対応が取れるように支援している。	入居契約時に本人や家族にかかりつけ医を確認し、継続希望の場合には通院の際に家族の支援を得ている。グループ法人の医療機関からの訪問診療を希望されれば、対応している。受診時には職員から日頃の様子や医師に確認してほしい内容をメモや口頭で伝え、結果を情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員より入居者様の日々の体調や身体状況などを看護師に報告、相談し、必要であれば受診に繋げている。また、看護師より入居者様毎の観察点や対応について常時指導がされている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医や看護師、ソーシャルワーカーに家族を交え情報の共有を行っている。また退院日が決まった場合には退院前に本人様の状態確認をさせて頂き、状態把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に急変し重度化された場合についても説明を行っている。現状を把握し、状態が悪化する前に家族に相談、話し合いを行い早目の対応を行っている。	利用者や家族には、入居契約の前から、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、了解を得ている。利用者が重度化したり、終末期を迎えたりした際は、関係医療機関や対応可能な施設への転居等、他機関と連携して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修として消防署へ依頼を行い、AEDの使用法や緊急時の対応等についての講習を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員を招いての防災訓練を行っている。地域との協力体制までには至っていない。今後地震のような災害を想定していく必要あり。	年2回、避難訓練を実施しており、災害対策マニュアル、災害時の事業継続マニュアルを整備して、法人全体で対応できるよう準備している。非常用食糧は法人全体の事業所分を本部で管理し、排泄備品や飲料水については、事業所内で管理している。避難訓練時に地域住民への呼びかけを行っている。	避難訓練の実施において、地域住民に声かけを行い、共有することで、より地域との関係性を深めることを期待する。災害時に孤立した場合を想定して、事業所内に必要な備品及び食料品の準備をお願いしたい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居前に本人様一人ひとりの人物像を情報収集し把握、理解することで誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行っている。	プライバシーに関して、研修を行い、職員の意識を高めている。職員は、日常の介護や声かけの場面で利用者のプライバシーに配慮している。毎日午後には実施しているカンファレンスの時間で利用者の情報を共有し、さりげない言葉かけができるように努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でご本人様の思いや希望を傾聴し、自己決定ができるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるものの、ご本人様の体調、希望を第一にご本人様のペースで一日過ごして頂けるよう柔軟な支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方にはご自分で衣類を選んで頂いている。また、季節や気候等、状況に応じた衣類の着用、着用時の整えの支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居前にご家族様より食べ物の嗜好等の確認を行い、その日の体調や嚥下状態を見ながら食事形態の変更を行っている。準備や片付け等が困難な方が多くなっているが、作業が出来られる方には台拭き程度の簡単な作業をして頂いている。	利用者の状況に合わせて、食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。食事中はテレビを消し、音楽を流しながら落ち着いた雰囲気の中、食事に集中できるようにしている。おやつには、まんじゅう、パンケーキ、船焼きを利用者と一緒に作り、食事が楽しめるよう工夫している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に水分チェック表に記載、統計を行い一日の水分量が必要量摂取できているか確認を行っている。また水分量が少ない方には声かけや本人様の好みの物を提供し摂取量の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをしており歯磨きがうまく出来ない方には介助を行っている。また週1回の義歯洗浄や必要に応じて訪問歯科往診を依頼することで口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧な方に関しては排泄チェック表にて排泄パターンを確認し、一人ひとりに応じた、排泄支援を行っている。排泄時間の間隔が長い時は失敗が無いよう声かけを行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。オムツを使用する場合は安易に変更せず、会議等で必要性を話し合い決定するよう心掛けている。	排泄チェック表を常に職員間で共有し、定期的な誘導等に活用している。頻尿のある利用者には医師等と相談して腹部を温めたり、不安で頻尿になっている時には、ゲームで気分転換をする等、個々の利用者に合わせた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し、出来るだけ水分を摂って頂くよう支援している。朝食前の牛乳提供、午前午後の体操、腹部マッサージ等を行っている。便秘が改善しない場合は看護師や医師に相談行い、本人様にあった下剤にて排便コントロールを行うことでスムーズな排便が出来るよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴前に本人様の意思を確認し、拒否があった場合は時間を置き気分転換したり、中止にするなど一人ひとりの希望に沿った入浴が出来るよう支援している。排泄時汚染あった場合も清潔を保つ為、急遽入浴を行っている。	おおよその時間帯や週の入浴回数を決めているが、希望があれば、入浴できる体制にしている。入浴を望まない利用者には、時間を変えたり、声かけの内容を変える等の工夫を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調や蛍光灯、寝具の調整を行うなど安眠できる環境作りに努めている。寝具類は貸し出しを行っているが、使い慣れた自宅の寝具類の持ち込みも可能であるためどちらか選択して頂いている。また日中は夜間不眠に繋がらない程度に休息して頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報ファイルを作成し、一人ひとりが薬の効能、副作用を理解確認し服薬介助に努めている。薬の変更時は口頭での説明、全体の申し送り、連絡ノートでの説明を行い全職員が把握できるように努めている。また、誤薬がないように服薬して頂く際には職員二人で必ずチェックしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や現有能力を考慮し、毎日の洗濯物たたみや花の水やりなど楽しみの一つとして頂いている。嗜好品としての飲み物や家族差し入れのお菓子の提供などで本人様の楽しみや気分転換に繋がるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様やご家族からの外出希望、依頼等には出来るだけ希望に沿うよう努めている。以前行かれていた馴染みの店への買い物や季節の花の見学等の外出も検討しており、また、定期受診、外食、散髪等、ご家族との関係を保ち、協力を得ながら外出できるよう支援している。	コロナ対策で外出を制限している。気候の良い時期は、近隣公園への花見散歩等に行っている。誕生月には、食べたいものの希望を聞き、外食している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理はご家族に依頼しており、遠方におられるご家族や頻回に面会出来ないご家族に関しては一定の金額をお預かりし、受診代や本人様の買い物希望や外出時に自由に使えるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との手紙のやり取りや定期的な電話での会話等、離れていても関係を継続し、安心して頂けるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に行事などの写真や創作物を掲示し季節感を感じて頂いている。また、不快に感じる音、光、臭いには常に注意を払い、加湿、室温調整にも心掛けている。	事業所の入り口に家族等が面会できる空間がある。壁には、利用者の写真を貼っている。居間には、ソファを配置し、新聞やボードゲームも据え置き、いつでも閲覧やゲームを楽しむことができる。トイレや浴室は、いつでも利用できるように清潔に保たれ、小物等の整理されている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮しながら必要に応じてその都度、席替えを行っているが環境変化を受け入れられない利用者様もおられる為、困難な場合もある。フロア内で過ごされる際、自席やソファーを利用し、落ち着いて過ごして頂けるような空間作りを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に安心して過ごして頂ける様、入居時に馴染みの物を持ち込まれても良いこととお話している。また、物(テレビ、家具)の配置を考慮し、落ち着ける空間の提供に心掛けている。	部屋は、適度に採光がある。備え付けのクローゼットがあり、室内は整理されている。利用者の使い慣れた椅子やクッション、テレビ等を持ち込むことができる。家族の写真を飾り、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で利用者様の身体機能、理解力について話し合い、居室の入り口付近や廊下等普段通られる場所には物を置かないよう安全面に考慮している。個々の身体機能、現有能力を生かしながら、出来ることはして頂くよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に全職員で作り上げた理念を基に日々の業務に取り組んでいる。誰もが目に入りやすい箇所に掲示し、常に意識できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年秋に開催している祭りの案内を地域の方に向けて行ったり、区内で開催される祭りにも参加することで交流を図っていたが、新型コロナウイルス感染防止の為、本年は実施していない。区長様とは電話連絡等で交流出来ている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献活動として月一回の「さくらそうカフェ」と地域医療センターと連携し、開催している「認知症カフェ」で介護や認知症に関する相談やテーマに沿って専門職の方の講義を受けられる体制をとっているが本年はコロナウイルス感染防止の為休止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてインシデント、アクシデント、日々の活動などの報告をしている。日常生活においては写真を掲示し説明を行っている。家族様にもご参加頂けるように文書や電話などで連絡を行い、参加者の意見がサービスの向上に繋がるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より運営上での不明な点に関しては直接、市に尋ねて相談を行ったり、アクシデントの報告は随時、行っている。また、運営推進会議に出席して頂いた時に質問したり、話し合いを行うことで関係を作っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はグループ内での身体拘束の研修に参加しており、情報を共有して身体拘束は行わないことを心掛け、実践している。日中は玄関の施錠も行っていない。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等への外部、内部研修に参加し、全職員と資料等で周知している。また、会議等を通してどういことが虐待に当たるのか、また虐待が起こらないような対応をしたらよいのか、説明や話し合いの場を設けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている利用者様が居られるが今後もご家族の状況により、必要となられることも考えられる為、毎年、市等で開催されている研修会などに参加し、理解を深めるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者二名で対応し、十分な説明をした後に家族に同意を頂くように努めている。また契約後も不明点や疑問点があれば遠慮なくお尋ね頂けるようにお伝えしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族から意見がある際には検討を行い運営に反映できるように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議への参加や面談、研修会等で職員の意見や提案を聞き、反映できることには対応している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、人事効果を行う際に自己目標の取り組み状況や考課表の評価、次の期間に対する目標、管理者の評価を基に話をしている。その中で本人のやりがいに繋がる内容として改善が必要なことについては環境の調整を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用にあたっては年齢や性別を理由に排除することはない。より広い年齢層の方々が短時間からでも働き、能力を発揮してもらえるような環境作りに取り組んでいる。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時のオリエンテーション時や毎年顧問弁護士により、人権、権利擁護の研修を行い、また、市で開催される権利擁護の研修にも参加し、職員への伝達を行っている。また、身体拘束廃止委員会の中でも権利擁護・虐待防止の視点を持って話し合いを行い、啓発している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内や法人内で開催している研修への参加は全職員へ案内を行っている。通常は毎月、合同研修を行っているが今年度は密にならないように資料や動画を使用しながら勤務時間内に取り組みめる内容で研修を行った。外部研修については役割に応じて参加をしてもらっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回、開催される市内グループホーム部会へ参加し、他施設職員の方々との意見交換を行っている。同部会主催の研修会やレクリエーションに職員参加を勧め、交流の機会を設けている。（今年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、電話での連絡で対応。）		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されること自体に不安や迷いを抱かれて場合もある為、ご本人様が話しやすい雰囲気作りを行い傾聴する。また施設見学时等で事前に関わりを持つことで関係性を構築できるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時にご家族に不明な点や要望を伺い、丁寧に説明をすることで信頼関係を築けるよう努めている。入居後も面会時に体調や日常生活の報告、相談をし、必要時には電話連絡を行い、ご家族からも気軽に連絡して頂けるような関係作りを心掛けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの際に現在の現在の状態やご家族様の意向等を聞き、必要となるサービスが何なのか見極めて説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で生活をされているのと同じように一緒にシーツ交換や衣類整理を行ったり、洗濯物をたたんで頂いたり利用者様の出来ることを行って頂き、暮らしを共にする者同士の関係性が持てるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ感染予防の為、外出や面会制限にて家族との関わりが少ない状況ではあるが、電話や毎月のお便りにて入居者様の状態の報告を行い、ご家族様の安心に繋がるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人や知り合いなどの馴染みの関係が途切れないように通常面会などはオープンにしている。現在は新型コロナウイルス感染防止の為面会制限の中、玄関入口での面会を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やレクリエーションを通して入居者間の交流の場を提供している。どうしても他者と気が合わずトラブルになるような場合には座席の配慮や職員が仲介を行うことで安心できるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に相談があった場合には、本人様の状態などをお聞きした上で適切なアドバイスができるように支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様一人ひとりの希望や意向に沿った支援が出来るよう、日常生活での行動や会話の中で本人様の思いや意向を十分に把握し、また、介護計画作成時に意向の徴収、職員間の情報収集に努め、本人本位の暮らし方を検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に状態確認の為、訪問を行い、本人様、ご家族にお話を伺い、情報収集を行っている。アセスメントシートを作成し全職員に提示することで情報の共有を図り、これまでの生活環境に近い状態で自分らしく過ごせるよう心掛けている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の行動や言動を観察し、日々の変化を記録に残している。病状や認知症状を含めた心身状態、現有能力を連絡ノートや記録、会議を通して把握し、全職員が共有することで情報交換に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時にモニタリングを行い、本人様、ご家族様の意向を伺い、職員間でも課題やサービス内容の検討を行っている。作成後はご家族様に説明し、了承を得るなど現状に合わせた計画作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にはご本人の言動やそれに対しての対応等細かく記録し、申し送りやユニット会議、ケアカンファレンスを通して情報共有に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族による協力、またかかりつけ医による訪問診療等外部からの支援を依頼実施している。入居施設でもあることから、外部との接触、多機能化という点では改善の余地があると思われる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、かかりつけ医との交流を通して、入居者の安全で豊かな生活を支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に家族、職員同行の下、かかりつけ病院受診（往診）を行い、日々のご本人の体調面等の報告を行っている。また、体調不良時などかかりつけ医と連携を取り必要な対応が取れるように支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員より入居者様の日々の体調や身体状況などを看護師に報告、相談し、必要であれば受診に繋げている。また、看護師より入居者様毎の観察点や対応について常時指導がされている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医や看護師、ソーシャルワーカーに家族を交え情報の共有を行っている。また退院日が決まった場合には退院前に本人様の状態確認をさせて頂き、状態把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に急変し重度化された場合についても説明を行っている。現状を把握し、状態が悪化する前に家族に相談、話し合いを行い早目の対応を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修として消防署へ依頼を行い、AEDの使用法や緊急時の対応等についての講習を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員を招いての防災訓練を行っている。地域との協力体制までには至っていない。今後地震のような災害を想定していく必要あり。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居前に本人様一人一人の人物像を情報収集し把握、理解することで誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でご本人様の思いや希望を傾聴し、自己決定ができるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるものの、ご本人様の体調、希望を第一にご本人様のペースで一日過ごして頂けるよう柔軟な支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご自分で自由に衣類を選んで頂いているが、季節や気候等、状況に応じた衣類の着用、着用時の整えの支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居前にご家族様より食べ物の嗜好等の確認を行い、その日の体調や嚥下状態を見ながら食事形態の変更を行っている。準備や片付け等が困難な方が多くなっているが、作業が出来られる方には台拭き程度の簡単な作業をして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせてお粥や刻み食を提供している。また、水分量の摂取が少ない方には本人様の好みの物を提供し、出来るだけ摂取して頂けるように声掛けを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをしており歯磨きがうまく出来ない方には介助を行っている。また週1回の義歯洗浄や必要に応じて訪問歯科往診を依頼することで口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧な方に関しては排泄チェック表にて排泄パターンを確認し、一人ひとりに応じた、排泄支援を行っている。排泄時間の間隔が長い時は失敗が無いよう声かけを行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。オムツを使用する場合は安易に変更せず、会議等で必要性を話し合い決定するよう心掛けている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し、出来るだけ水分を摂って頂くよう支援している。朝食前の牛乳提供、午前午後の体操、腹部マッサージ等を行っている。便秘が改善しない場合は看護師や医師に相談行い、本人様にあった下剤にて排便コントロールを行うことでスムーズな排便が出来るよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴前に本人様の意思を確認し、拒否があった場合は時間を置き気分転換したり、中止にするなど一人ひとりの希望に沿った入浴が出来るよう支援している。排泄時汚染あった場合も清潔を保つ為、急遽入浴を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調や蛍光灯、寝具の調整を行うなど安眠できる環境作りに努めている。寝具類は貸し出しを行っているが、使い慣れた自宅の寝具類の持ち込みも可能であるためどちらか選択して頂いている。また日中は夜間不眠に繋がらない程度に休息して頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報ファイルを作成し、一人ひとりが薬の効能、副作用を理解確認し服薬介助に努めている。薬の変更時は口頭での説明、全体の申し送り、連絡ノートでの説明を行い全職員が把握できるように努めている。また、誤薬がないように服薬して頂く際には職員二人で必ずチェックしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や現有能力を考慮し、毎日の洗濯物たたみや花の水やりなど楽しみの一つとして頂いている。嗜好品としての飲み物や家族差し入れのお菓子の提供などで本人様の楽しみや気分転換に繋がるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様やご家族からの外出希望、依頼等には出来るだけ希望に沿うよう努めている。以前行かれていた馴染みの店への買い物や季節の花の見学等の外出も検討しており、また、定期受診、外食、散髪等、ご家族との関係を保ち、協力を得ながら外出できるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理はご家族に依頼しており、遠方におられるご家族や頻回に面会出来ないご家族に関しては一定の金額をお預かりし、受診代や本人様の買い物希望や外出時に自由に使えるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との手紙のやり取りや定期的な電話での会話等、離れていても関係を継続し、安心して頂けるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に行事などの写真や創作物を掲示し季節感を感じて頂いている。また、不快に感じる音、光、臭いには常に注意を払い、加湿、室温調整にも心掛けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮しながら必要に応じてその都度、席替えを行っているが環境変化を受け入れられない利用者様もおられる為、困難な場合もある。フロア内で過ごされる際、自席やソファーを利用し、落ち着いて過ごして頂けるような空間作りを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に安心して過ごして頂けるように入居時に馴染みの物を持ち込まれても良いこととお話ししている。また、物(テレビ、家具)の配置を考慮し、ゆったりと落ち着ける空間の提供に心掛けている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で利用者様の身体機能、理解力について話し合い、居室の入り口付近や廊下等普段通られる場所には物を置かないよう安全面に考慮している。個々の身体機能、現有能力を生かしながら、出来ることはして頂くよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない